

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108365		
法人名	有限会社ライフイン国見ノ里		
事業所名	ライフイン国見ノ里		
所在地	秋田県秋田市豊岩小山字前田表158-3		
自己評価作成日	平成27年10月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者が周囲の生活、風土に慣れ親しみ、地域との交流も気軽にできるような環境づくりを目指す。また、個人個人の残存能力の維持にも努めていく。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田んぼのすぐ傍に事業所があり、同法人のショートステイが隣接しています。食堂の隣の部屋は「地域交流室」として地域に開放し、農繁期以外は毎日数人が訪ずれて、利用者とも交流されています。「地域と共に過ごす」年間行事として、12項目掲げられています。職員は一人ひとりのおかれている状況を理解しながら、関係者と話し合い、安心して過ごせるよう笑顔と心に余裕をもった支援に取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の明示(掲示)を周知し理念に基づき職務に当たる。介護五訓を目標とする。	理念を基にした介護目標も掲示され、お互いに話し合いながら共有し実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の「地域交流室」を基点に地域、施設の行事の交流など互いの交流を深める。	会長の地元でもあり、以前から地域住民とは深く関わり、日常的に様々な事で交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地元の小学生の社会探訪の受け入れ、敬老会や施設行事への招待などを通じ施設や入居者の生活を理解していただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年六回の運営推進会議において利用者の状況報告や介護の取り組み報告をしご意見やご指導を仰いでいる。	行政・地域の消防関係者・民生委員などが出席され、地域の理解と支援が得られるよう努力されています。終了後は利用者との交流の場も設けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、保護課への連絡、報告、相談を経て指導を受ける。地域包括、成年後見。サポートセンターから指導を受けている。	書類の書き方や、利用者の相談、又行政職員からは困難事例などに対して相談されることも多く、連携を深められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない拘束が必要になったときはマニュアルに従い家族や主治医と相談。了解を得る。	全職員が拘束を理解し、馴れ合いによる言葉かけが見られる時は、その都度注意しながら取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員ともに常に関連法に従い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を現在利用している入居者がいるため専門員から指導を受けながら毎月実践体験をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するすべては利用者や家族に納得してもらえるよう説明、理解、納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設内での行事、家族との面会時に希望や意見を伺い運営に反映している。	面会時には、それぞれの家族の立場に配慮しながら話すようにしています。会話の内容は全職員で共有され、運営に活かされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の職員間での申し送りの際の意見や提案を職員会議で提案。代表、管理者、職員一同で検討しあう。	日常的に意見交換が行われ、特にケアに関した事が多く、カンファレンスなどで話し合わせ、サービスの向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境整備、各種手当の支給、勤務時間の調整等配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は各職員が年一回は参加しその結果を事業所内研修として行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設相互訪問、各種の研修、講演会などへの参加により他施設への交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入居前後より本人と家族を交えての面談、施設内案内情報交換などを経てお互いを理解し寄り添いながらの介護から始める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の運営状況の説明、御家族の思いや要望等をよく聞き取る。入居後も近況等を、面会時や電話連絡等で伝え安心してもらう。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭生活の延長と考慮してもらえるよう安心できる環境(健康管理、食事、清潔等)を整え入居者の希望に添えるよう配慮する。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会や通信手段で連絡や相談をとりあい本人と家族の思いや了解など理解し分かち合う。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々若いころの話を始める方が何人かおられる。虚虚实実混じった昔話も大切な思い出として受け止め何度も同じ話でも時間をかけて拝聴している。	個々のこれまでの社会及び人間関係を把握しながら、日々の話題を工夫しています。将棋を職員と行い趣味を継続している利用者もおります。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	周囲には全く無関心な方が多いが散歩の折などは他の方の歩行に気を配ってくれる方もいる。その折には職員がお礼の声掛けをするととても喜ばれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前後の家族への相談と支援、相手先の相談員や関係者との連絡や相談など密にし家族が不安にならないよう支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれ違う希望や思い等を理解し少しでも願いがかなうよう寄り添いながら協力していく。	本人の日常の動向を(特に精神面)観察しながら、寄り添い把握に努め、ミーティングや会議で共有されています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後の本人や家族などへのアセスメントを丁寧に行う。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の動向の見守り、すこしの助力が自立に向かう事への意識を感じてもらう。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や思いと家族の思いを受け止め介護職としての意見も合わせている。	一人ひとりがより良く暮らす為の課題やケアの在り方について、アセスメント・モニタリングを繰り返しながら、本人本位の介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護日誌や職員間の連絡帳、申し送り、職員会議などで見直しや改善点等共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然に恵まれた環境で四季それぞれ町内の祭りごとや地域の方との交流を楽しんでいる。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族了解のもと訪問診療、定期通院、訪問歯科等	2週間に一度全員主治医の往診があります。情報(指示書)はノートで共有されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時および電話、ファクスでの相談助言を受ける。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問診療による主治医との連絡指導があり夜間でも対応してくれる。緊急時の搬送病院は家族と了解済み		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応の受け入れはまだできていないが状況に応じ主治医や家族と連絡を密にし希望に添えるよう支援していく。	主治医と連携しながら、出来ることを説明し取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従う。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間、冬季に分け災害時の緊急体制、対応の訓練は地元住民の協力のもと定期的に行っている。	消防署員の講評は会議などで話し合わせ、防災意識の向上を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのこれまでの人生、性格体調を理解し先輩としての尊厳を持って寄り添っていく。	馴れ合いによる言葉かけには特に注意し、どんな些細な事にでも共感しながら取り組まれています。排泄誘導時には、周囲に配慮し、さりげない声掛けで対応されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れ時間をかけてゆっくり対話することで心が開くこともある。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課は守りながらも本人の意思表示も重きを置き、心理や体調も照らし合わせながら希望に添えるよう計らっていく。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の声掛けや介助で整える。仕上げをほめると喜ばれ「明日も」とせがまれる。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は難しいことはできなくなってきたが野菜の下ごしらえ程度は少なから出る方も居られる。食事は皆様適量を残すことなく美味しく頂いている。	一人ひとりの着席の位置に配慮しながら、みんなで楽しくたべれるよう支援されています。定期的に移動販売車が玄関まで来てくれるので、飲み物やお菓子など買う利用者もおります。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の食事状況を把握している。季節の新鮮な食材で見た目もよくバランスが取れた食事を配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、ほとんど自力で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況のチェック記録。男性は立位排尿での失敗が多いが洋式便器での排尿を拒むため事後の便器掃除は必須。長年の習慣は直すことが出来ない。	排泄パターンや習慣を把握しながら誘導し、改善例もあります。特に羞恥心に配慮した支援が実施されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医による便秘薬の処方。あわせて日常生活での食事内容、水分補給、歩行等軽い運動の勧めも行う。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴への誘いや入浴時の会話等に配慮し楽しい雰囲気工夫している。体調によりシャワーや清拭も行う。	拒む利用者には、時間や担当職員を変えたりしながら、週2～3回は入浴出来るよう取り組んでいます。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室での安心感が持てるよう空調管理、掃除やリネン交換等の配慮している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が診察処方した薬を職員が本人に確実に手渡し服薬確認		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食材のお手伝い、カラオケや手踊りに興じる、将棋やトランプ 長続きはしないが自分の気の向くままに楽しんでおられる。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居期間が長くなり皆様高齢になってきているため遠出は無理であっても手近な園庭散歩や日光浴は好んで参加される。近くの農家さんとも顔見知りになり会話が弾む。	事業所周辺の散策は日常的に行われ、草花を摘んだりしながら楽しまれています。近場への個別外出支援についても検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを防ぐため家族の了解のもと施設でお小遣いは預かっている。小さな買い物や訪問販売車の買い物は職員が手伝う。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅への連絡は公衆電話で職員が介助。最近ほとんど利用されていない。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、消毒消臭空調整備等常に管理点検。外での散歩で摘んだ野花を飾る入居者もおられる。	ホールの小上がりの畳スペースは車いす利用者も体位変換を兼ねてくつろぐこともあります。絵や工作の得意な職員もあり、廃品を利用した作品が飾られています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの椅子や小上がりでの休憩。テレビを見たり居眠りやおしゃべりや職員を挟んでのんびり過ごされる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の洗濯には配慮している。(物とられ妄想など)衣類も一品物に固執している方もいるため声掛けにも十分配慮。	居室内の温度・湿度は定期的にチェックし調整されています。居室内には必要な物品が持ち込まれ、一人ひとりの生活スペースがつけられています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護用品の準備は必須だが安全を確保しながらもわずかな一歩～自立を目指せるよう介護とご本人のやる気に期待している。		